

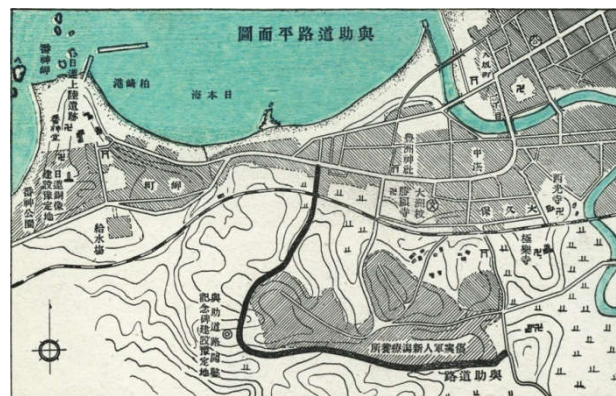
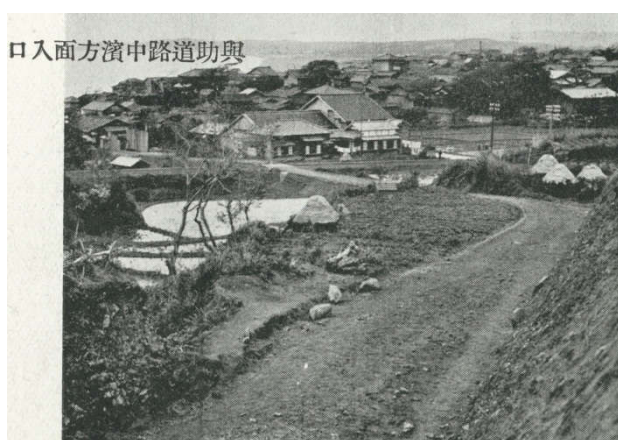
「柏崎の橋」

49 与助架道橋（中浜・寿町・赤坂町）

与助架道橋は、JR信越本線が通る中浜・寿町・赤坂町の境目の場所に架かる。その名のとおり、線路の下に「与助道路」を通すための跨道橋である。

与助道路という名前は、この道路の開鑿費用を寄付した五十嵐与助からつけられた。五十嵐冷蔵株式会社の創設者で中浜出身の五十嵐与助は、傷痍軍人新潟療養所（現在の新潟病院）建設により中浜から剣野山へ向かう山道がなくなったことを知り、多額の寄付を行って代わりの道をつ造った。昭和17年に完成した与助道路は美しい赤松林に囲まれており、療養所の入院患者の良い散歩道になったという。その後改修されて道幅が広くなると、当時新たに開通した国道8号線と中浜を結び重要な連絡路となった。また、郵政省の簡易保険加入者ホーム 越路荘（かんぼの宿）の利用者も多く通行したことだろう。

与助架道橋ができる前の線路は単線であり、橋のかわりに「与助踏切」があった。踏切ではトラックと急行列車の衝突など重大な事故も発生していた。昭和40年代前半、列車運行の安全確保と輸送力強化のため、国鉄が直江津―宮内間の複線化に着手すると、柏崎―鯨波間の踏切が解消されるのか、線路はどのようなルートとなるかが



市民の一大関心事となった。市としては新潟病院側の山にトンネルを掘って線路を通すことを希望しており、柏崎日報紙上でも「エゾ塚付近のトンネル化によってカーブがなくなり、線路による地域開発の支障が排除され、交差道路の解消によって交通安全の確保をはかることができる」という意見が掲載されるなど、トンネル化の実現が望まれた。しかし国鉄側がコスト増を理由にこの構想を受け入れず、最終的に、おおむね既存の線路に沿うルートで複線化された。与助踏切も路線自体に大きな変更はなかったが、踏切を廃止して立体交差とするため、新たに与助架道橋が建設された。橋の銘板によれば、着工は昭和42年4月1日、竣工は昭和44年3月31日であった。

昭和31年、与助道路をつ造った五十嵐与助を讃える道標が建てられた。道標には結果的に橋と踏切の名前にもなった「与助道路」の文字が刻まれている。道標は後の道路改修の際に設置場所が移動したが、現在も橋の傍らに静かに佇んでいる。

【写真】「与助道路竣工記念絵葉書」

左：与助道路中浜方面入口（部分） 上：与助道路平面图

●参考にした本

『下町の文化財』（382サイ）西川勉 著

『柏崎のいしづみ』（224 ヤマ）山田良平 著